

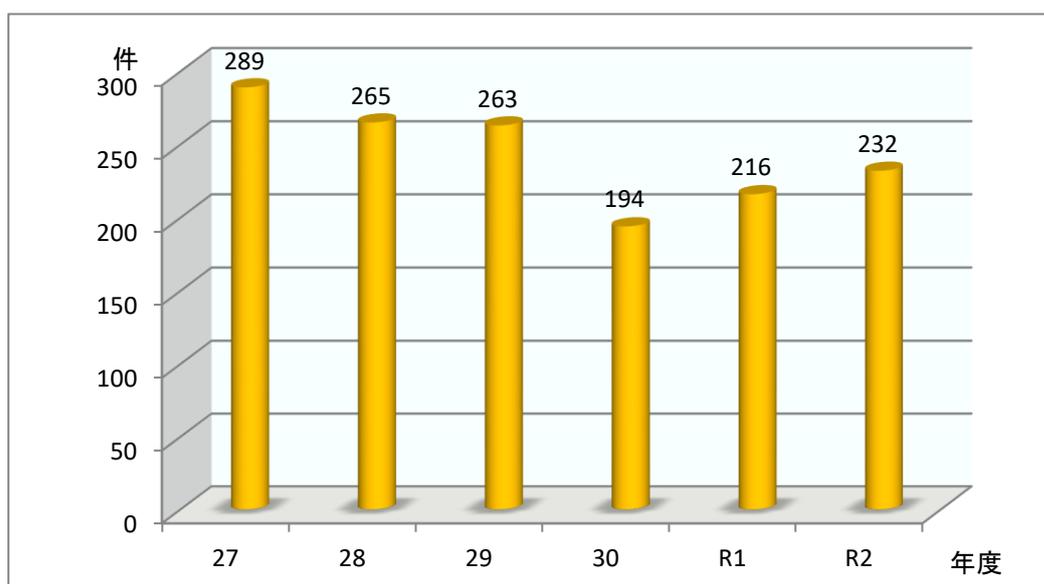
4 希釈式自己血輸血の施行数

解説

希釈式自己血輸血とは、同種血輸血による副作用を予防するために、術中大量出血が見込まれる患者さんに対して、手術開始直前に800g前後の自己血を採血し、同時に採血量に応じた代用血漿輸液により患者さんの血液を薄める方法です。採血しておいた自己血は手術の終了までに患者さんに戻します。

希釈状態で手術を行うため、実質的な赤血球成分の損失を少なくすることが出来ます。また、輸血副作用の回避以外に悪性腫瘍の再発率低下が示唆されております。

実績



自己点検評価

令和3年度の施行件数は206件(3月24日現在)であり、数年ほぼ横這い～低下。低侵襲手術の増加に伴いこの傾向は継続すると予想。

定義

各年度1年間の希釈式自己血輸血の施行回数
※平成27年度より追加した項目

算式

施行件数